



借金ゲームと信用ゲーム



©2001 dabbb, inc.

「借金」が気になっている。私に莫大な借金があるというわけではない。正確に言えば、借金という言葉の持つイメージについて考えているのだ。そのきっかけとなったのは『ナニワ金融道』(Jump01)というプレステのゲームだった。あのヒットマンガのボードゲーム化で、プレイヤーはゲームの最初から1億円の借金を抱えており、妙なアルバイトをしたり、悪徳金融業者の恐怖に耐えたりしながら、借金生活のつらさと返済完了時の喜びを体験するというものだ。

ここで展開されている話は、金額もストーリーもマンガ的だが、借金そのものの一般的なイメージは案外こんなものなのかもしれない。つまり不倫、マルチ商法、商品相場、地上げなど、危険な状況と常にセットで語られ、まるで麻薬のように一度手を出したら二度と一般社会には戻れないようなものとしてである。しかし、考えてみれば「借金」という表現をしただけで、我々の多くは、金融機関に何百万、何千万というおカネを前借りし、少しずつ返済しながら普通に生活をしているはずだ。それは、「住宅ローン」や「教育ローン」と呼ばれている。

同じ意味を持っていて、別な単語が用意されているときは、大体誰かの都合が悪いときだ。たとえば「税金を投入」という代わりに「公的資金」と言ってみたり。そもそも「金融」という言葉自体、ナニワ金融道的、街のサラ金的なイメージがあるせいか、最近では「ファイナンス」と言い換えられることが多い(誤解を避けるために書いておくが、私は『ナニワ〜』や『カバチタレ』のファンである)。

ローンもファイナンスも負債も、多少の誤解はあっても一番わかりやすい所に合わせて「借金」とひと括りに言ってしまった方がよいのではないだろうか。この説に同意する方には、『ゴミ投資家のための人生設計入門 借金篇』(メディアワークス)という本を薦めておきたい。住宅ローンから自己破産まで、資金調達からその運用まで、個人レベルでおカネを借りることに関する目からウロコの知識が詰まっている。

借金は、個人レベルから法人、国へと規模が大きくなるとまた別の呼称が登場する。それは、「債券」だ。国債も社債も借金の証書のようなものだが、借金というニュアンスがあまり感じられないように思うのは私だけだろうか。また、日本では「債券」と「債権」というまったく別の概念がたまたま同じ発音のため、ある種の混同の元になっているのではないが、これは冗談のように聞こえるかもしれないが、私が講師をしている大学で簡単な調査をしたところ、その違いが明確にわかる学生は10人に1人もいなかった。「不良債権の処理」と「国債発行高30兆円以下」という小泉内閣のスローガンは、普通の学生には通じていないのだ。

結局のところ、最大の問題は用語のイメージではなく、借金(ファイナンス)について日本では基礎の基礎すら学ぶ機会が無いことだ。それをほんの少しでも解消するために、おカネをテーマにしたアート展覧会を企画してみた。タイトルは「信用ゲーム」展。その意味が知りたい方はウェブサイトどうぞ (Jump02)。

Jump01 www.sp.kodansha.co.jp/nanikin/

Jump02 www.masuyama.com



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp